

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	総合業界研究2
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全専攻	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	業界総合マップ（配布）				
担当教員情報					
担当教員	小崎	実務経験の有無・職種	有・エンジニア・ディレクター		
学習目的					
<p>変革期を迎えている音楽業界では、ただ一つの技術を持っていても生き残る事が非常に厳しい現実がある。自分の専門分野のみの知識に頼らず俯瞰的に業界を見渡す事の出来る技術もまた、今後重要となっていく事が予想される。この授業では音楽業界に於ける様々な職種や企業を知りその相互関係を学ぶ事で、幅広く長く業界で活躍の出来る考え方を身につける。また社会人としてのマナーに限らず音楽業界特有の留意点なども学び、即戦力として活躍の出来る知識を同時に得ていく。古い資料や経験談だけに頼らず、今現在の音楽業界の動向を探りその傾向と対策を最新のニュースやリリースから紐解いていき、常に業界をリードしていく事の出来る人材の育成を目的とする。</p>					
到達目標					
<p>まずは音楽業界に存在する主な職種や企業の名前など、業界常識とされる知識とマナーを理解する。その後、各職種の業務内容とその相互関係について詳細に理解。最終的にそれらの職種と自分自身の希望する職種の関係性を考え、オリジナリティにあるビジネスプランを就職面接の段階から企業に提案出来る人材育成を目指す。</p>					
教育方法等					
授業概要	<p>配布資料の業界マップを中心に、各職種の仕事内容や現状を具体例を交えながら説明。ベーシックな業界の概要を理解したところで、グループに分けて実際にアーティスト写真を見ながら楽曲を聞いて、具体的なプロモーションプランを立てて発表する機会を作り実施。その中で身近なメディアと音楽業界の企業がどの様に繋がり、どの様にして多くの人間まで届くのかを理解していく。後期の授業では実際に就職活動を行う中で、どの様な点を注意するべきか、講師が音楽業界の人事を経験した観点から具体的に個人面接を交えながら話していく。</p>				
注意点	<p>リアルタイムな音楽業界の講義を行うので、普段の出席率や授業態度が50%の評価を占める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験する事ができない。</p>				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表、内容について評価する		
平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期試験解説	前期試験の解答について、詳細な解説をして完全にわかる。			
2回	業界考察1	音楽パッケージの売り上げ推移などを資料を参照して、わかる。			
3回	業界考察2	著作権ビジネスについて更に深いところまで具体例を含めてわかる。			
4回	業界考察3	世界的な音楽ビジネスの流れと日本独自の音楽ビジネスについて、相違点と共通点がわかる。			
5回	業界考察4	今後の業界展望を考え、具体的に自分自身がどの様に関わっていくかを長期的なビジョンを作成する。			
6回	プロデュース4	前期で行ったプロデュースプランの精度を上げるため、再度新しいアーティストでプロデュースプランをグループで作成。			
7回	プロデュース5	前回の反省点を考察、さらに幅広い業界の関係性と共に世界的なプロモーションについてわかる。			
8回	プロデュース6	プロデュースプランの完成。			
9回	就職対策	音楽業界に就職して、長く続けていくために大切な事がわかる。			
10回	面接対策シート1	面接対策として、配布の質問に時間制限を作り解答、各質問に対する解答例を提示。			
11回	面接対策シート2	面接対策として、配布の質問に時間制限を作り解答、各質問に対する解答例を提示。			
12回	面接対策シート3	面接対策として、配布の質問に時間制限を作り解答、各質問に対する解答例を提示。			
13回	面接対策シート4	面接対策として、配布の質問に時間制限を作り解答、各質問に対する解答例を提示。			
14回	面接対策シート5	面接対策として、配布の質問に時間制限を作り解答、各質問に対する解答例を提示。			
15回	後期試験対策 就職対策	後期授業の総括と共に試験対策をする。それと共に就職に対して春休みから準備を行う必要性について理解し実行する。			